



みたちっ子だより

校長 中路 知恵

みつけよう夢を たすけあおう友と ちからあわせて やる気いっぱい まだまだのびる

長幼の序

先日の運動会では、みたちっ子の全力で取り組む姿勢に対し、多くの方々から賞賛の声をいただきました。わずかな練習期間でしたが、どの学年も本当に素晴らしい姿を見せてくれたことを大変誇りに感じます。さて、運動会の当日、こんな場面に出会いました。

低学年のある児童が自分の椅子を持って運動場に出ようとしていました。低学年が片手に水筒を持ち、椅子を抱えながら階段を下りるのは危険が伴います。ですから、安全な椅子の持ち方を練習して、ゆっくり列を守って移動します。その時、ちょうど通りかかった高学年がすっと手を差し出し、一緒に椅子を持ってあげていたのです。高学年ですので、きっと自分の仕事もたくさんあったはずですが、小さい子の安全を優先したその判断と行動に、私はとても感動しました。

本校では、年間を通して1年生と6年生が交流、指導、協働を図る取組を実践していますが、これは、我が国に伝わる「長幼の序」という伝統的な考え方に基づいたものです。他にも、異学年が縦割りで活動する場も設定しています。これらを通して、上級生は下級生をいたわる優しさや教諭す厳しさを自ら養います。下級生は、教え導く上級生の姿を体験的に学ぶことによって、敬愛と尊敬の心を育み、いつかはリーダーとなって動くことができる資質を身に付けていきます。

小学校は、6つの学年と大人との集団による社会組織を形成しています。ですから、当然組織の序列というものが生じます。最も日常的でわかりやすいのは「敬語」です。言葉遣いによって、誰が目上の人なのか、指導的立場の人なのかがわかります。実は、この言葉遣いが、学校での学習成立に大きく関係しています。その証拠に、学級崩壊といわれる学級では、先生への敬語は存在していません。

私は、子供たちとよく話をするとき、「校長先生は、あなたのお友達ではありません。」と諭すことがあります。どんなに親しい間柄であっても、目上の人への言葉遣いは、毅然として教えていきたいと思えます。「そのような厳しい指導はいかがなものか」というご意見があるなら、それは残念でなりません。なぜなら、この「長幼の序」は、ある意味、親子間では、なかなか指導が難しいからです。

近い将来、大きな社会に出る子供たちに、今から身に付けさせていきたい力を着実に育てていきます。社会性にかかる学びの充実は、学校、地域が担う大切な役割の一つと考えています。

【6月の主な行事】

1日(月) 委員会活動	15日(月) クラブ	25日(木) 授業参観・懇談会
2日(火) 歯科検診1.2.6年	17日(水) 社会科見学4年	4～6年
交通安全教室1年	18日(木) ブクブクタイム開始	26日(金) 授業参観・懇談会
3日(水) 交通安全教室4年	21日(日) 家庭の日	1～3年
4日(木) 歯科検診3.4.5年	22日(月) 長崎っ子の心を見つめる週間(～26日)	
8日(月) クラブ プール開き	朝の読み語り(～12日)	

